

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和4年11月10日

公表: 令和4年12月30日

事業所名 重症児デイサービス パッチワーク

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	2		・入浴でストレッチャーを使う時などに、適切なスペースがとれないときがある ・5人利用者がいると狭いので、もう少し広ければ
	2	職員の配置数は適切である	12	0		看護師や保育士の増員を行い、適切な人員配置を行っている
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9	3		できる限りバリアフリー化している。こあがりにも上がる際に段差がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10	2	・毎日、利用者が帰宅した後に消毒液や、使い捨て除菌シートで清掃を行っている ・季節の飾りつけ等を工夫し季節感を出したり、楽しい雰囲気づくりを心掛けている	コロナをはじめとする感染症対策を徹底して行う。換気や除菌などを確実にを行う
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	2	毎朝、利用者受け入れ前に当日勤務者全員での話し合いの時間を持っている	職員間で業務改善を図る為の話し合いを多く持つように努めているが、全員参加しているとは言えない
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12		今年度から、当事業所に添った保護者向けのアンケート用紙を作成し実施した	保護者に対して事業所評価を実施している。そのご意見を参考にしながら、業務改善を図っていききたい
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11	1		職員全員が自己評価を行っている。その結果による評価や改善内容は、医療法人も小児科のホームページ内で公表している
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	5		外部評価としてはなされていない。しかし外部の方々のご意見を伺いながら業務改善を行っていききたい
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11	1		オンライン研修を活用しながら、積極的に研修機会を増やした。職員全員が研修を受けているとはいえ、職員毎にバラつきがある。
適切な支援	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	11	1		多角的視野から子どもや保護者を見つめ、客観的にニーズや課題を分析していけるように、職員間の意見交換や研修を重ねていききたい
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	6	標準化したアセスメントシートを当事業所で作成している	初回利用時までに、詳しいアセスメントシートの記入をご家族にお願いしている
	12	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10	2		現在コロナ流行などの事を鑑むと共に、重症児が対象の当事業所では地域支援の具体的な支援内容の設定はできていない。しかし、当事業所の周囲の方たちは、挨拶や声掛けをして下さり、日頃から温かく子ども達を見守ってくれている
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	12	0		計画立案時にはスタッフ間で話し合いを持ち、意見交換を行い共有できるようにしている
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	12	0	呼吸器装着など重症度の高いお子様も一緒に参加し楽しめるように工夫している。年齢や障害の違うお子様が、楽しく参加できるように個別で工夫している	保育士を中心に話し合いを行いながら立案している。毎月、翌月のテーマや目標を決定する話し合いを持ち、計画を立てている。

の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12	0	月毎にテーマを決めて、色々な経験ができるように工夫を重ねている。療育活動中は、安全面に配慮しながらスタッフ全員で活動に参加している	季節の行事を大切にしている。テーマの本を決めて、その世界を子ども達が感じられるように療育を組み立てている。子ども達があそびの中で使う物も、職員が手作りで作っている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	12	0		毎日、個別活動・集団活動を行っている。子どもの状況に合わせた計画の作成を心掛けている
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12	0	その日の活動内容や、個別・集団療育を行う時間、個々の子ども達の配慮すべき点などの確認を日々行っている	毎日処置ボードを用いて役割分担を確認している
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11	1		記録等で情報共有には努めているが、支援の振り返りを毎日行っていない。気になる事がある時は、職員間で振り返りを行っている
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12	0	療育活動の様子や反応は、保育士が個別に毎日記録している	看護記録を記録し、振り返りを行っている
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	11	1	主に6か月毎にモニタリングを行っている。それを基づき、次の個別支援計画を立案している	適切で客観的なアセスメントが行えるように、研修を重ねていきたい
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	1		主に児童発達支援管理責任者が参加している。今後は、日頃から支援に携わっている他の職員も参加する機会を増やしていきたい
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	10	2		必要に応じて情報交換を行っている。今後も更に連携強化を図っていきたい
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	11	1	訪問看護ステーションや相談支援専門員と連携している	教育機関との連携が少ない。今後、教育機関とも連携が図れるようにしていきたい
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	11	1	主治医から医療的ケアの指示書や経過・治療内容をいただいている。連絡先の記載もされている	緊急時、早急に連絡が取れるように、利用者様の連絡カードを毎年更新し、すぐに見れるようにしている
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	5		二葉園に通園しているお子様の情報共有は、数人行っているが、情報共有ができていない児とできていない児がいる。今後は、更に情報共有を深めていきたい。保育園への移行支援は、先方が希望されなかった
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	4		情報共有が十分行えているとはいえない。今後、連携が図れるように努めていきたい
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9	3	関係者会議等で助言を頂いている	コロナの影響で、関係者会議や研修の機会が減っていた。今後、関係各位と連携していけるように努めていきたい
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	12		複数の医療的ケアが必要なお子様も多い為、他施設と交流する機会は設けていない
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	7		年2回開催されている南区子ども部会に参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12	0	登園時・降園時に直接保護者とお話する時間がある為、十分に対話を重ねる事で、共通理解が図れるように努力している	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	8		ペアレントトレーニングではないが、保護者と子どもの対応の仕方についてはお話をしている
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12	0	契約書・重要事項説明書・運営規定を本箱に設置し、どなたでもすぐに手に取って見て頂けるようにしている	契約時や、利用者負担の変更がある時に説明を行っている

保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	12	0	個別支援計画立案時に保護者との面談時間を設けている。今までの支援を振り返ると共に、今後の支援内容の説明を行うようにしている	支援内容の説明だけでなく、ねらいについても詳しく説明していきたい。全員と面談はできていない為、面談の機会を増やしていきたい。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12	0	主に、保護者がお迎えに来られた時に対話を重ねて、相談に応じたり、助言を行っている	保護者が相談しやすい環境を作っていくと共に、適格な助言や支援ができるように努めていきたい
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	11		コロナが流行したため保護者会は開催していない。 流行が落ち着いたら、今後計画してみたい
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	12	0	相談や申し入れがあった場合は、迅速な対応を心掛けている。	定期的な面談を行い、保護者と子どもの悩みや思いを共有できるように努めている。臨時の利用希望などについては、子ども達の安全を第一に考慮しながら迅速に対応している
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12	0	・月末に翌月の活動予定表を配布している ・療育活動の様子は、ホームページやインスタグラムで公開し、保護者にもお伝えしている ・連絡事項は、ライン等で全員に一斉伝達している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	12	0	関係各位との情報共有については、契約時に同意書を頂いている。写真や動画の公表については、契約時に同意書を記入して頂き、同意が得られている範囲で掲載している	ホームページやインスタグラムで療育活動を公開している為今後も個人情報の取り扱いには十分注意していく
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12	0	挨拶にボカなどの器具を使用したり、言葉で伝えるだけでなく、視覚や様々な感覚を通して意思の疎通を図るように配慮している	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	11		行事に招待などは行っていない。外遊びなどの時に挨拶を交わすなどの交流は行っている	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	12	0		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染防止マニュアルは作成している。保護者への周知が足りないので説明を図っていきたい
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	0	年2回実施している。地震・津波と火災を想定した訓練を机上と実地で行った	津波避難訓練は実施結果報告書を広島市危機管理室防災予防課に提出している
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	12	0	契約時に家族に記入して頂くアセスメントシートに詳しく記載して頂くと共に、主治医から経過や治療内容・指示書をお願い確認している	定期的に変更などがないか確認していく
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12	0	・食物アレルギーがある場合は処置表に赤字で記載をしている ・アレルギー一覧表を作成している	療育活動時も、一覧表を活用し注意している
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	5		ヒヤリハット報告書に記載し、スタッフ間で共有・検討を行っていきたい
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	7	虐待防止委員会は存在している	文書での確認を行った。今後、研修への参加していきたい
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	4		身体拘束を行う事はない

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。